

**第2期荒尾市教育振興基本計画
令和4年度数値目標報告書**

令和6年3月

荒尾市教育委員会

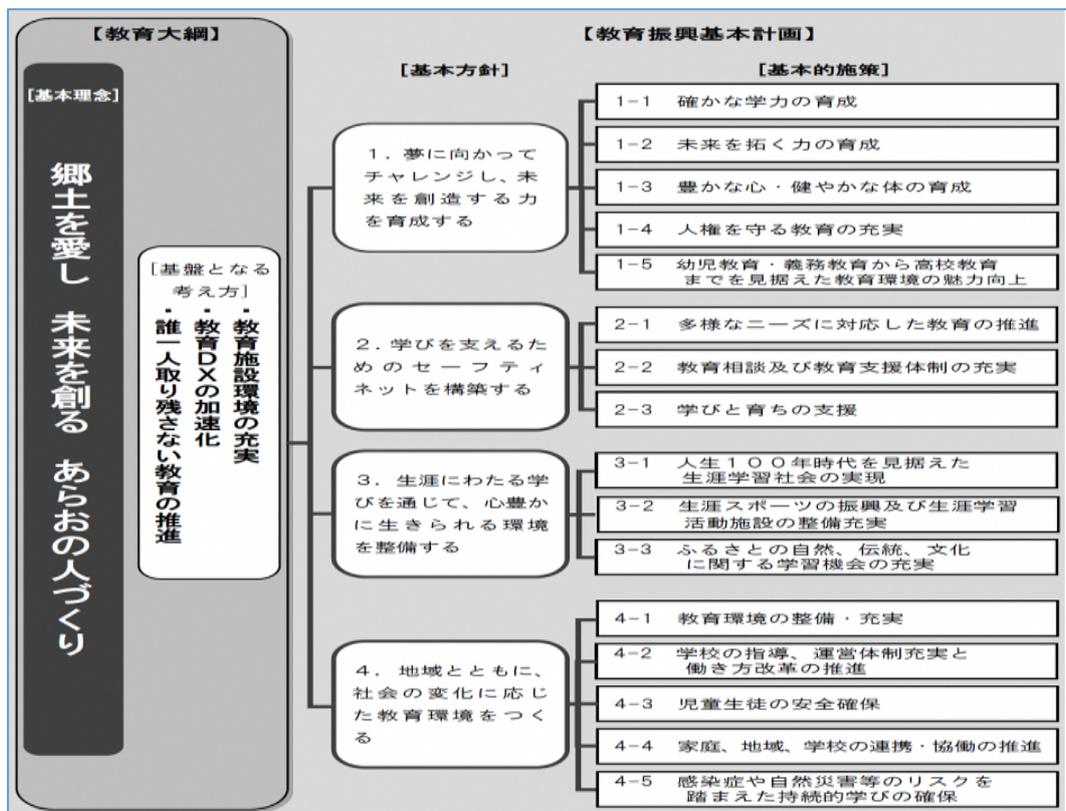
「第2期荒尾市教育振興基本計画の進捗状況」の 点検及び評価について

1. 第2期荒尾市教育振興基本計画

平成29年度から令和3年度までを計画期間とする「荒尾市教育振興基本計画（第1期）」の後継計画として、令和4年度から令和8年度までを計画期間とする「第2期荒尾市教育振興基本計画」策定した。

本計画は、教育委基本法第17条第2項に基づき、国や県の教育振興基本計画を参酌し、本市における教育振興のための施策に関する基本的な計画であり、本計画と地方行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づく教育大綱を一体的に策定することで、教育施策の更なる充実を図っている。

【体系図】



2. 計画の進捗状況に関する点検・評価

第1期計画に引き続き、「荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価」により計画の進捗状況を点検・評価し、必要に応じて改善を図ることとする。

3. 点検・評価の方法

「第2期荒尾市教育振興基本計画 数値目標一覧」により、第2期荒尾市教育振興基本計画に掲げる数値目標の達成状況の確認を行う。

また、基本方針に基づく重点施策の主な取り組み状況について、「第2期荒尾市教育振興基本計画 重点施策一覧」により、前年度の主な取り組み内容や課題点等について評価し、目標達成のために改善が必要な事項等については、次年度以降の改善に繋げていく。

第2期荒尾市教育振興基本計画 数値目標一覧

【基本方針1 夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する】

基本的施策	数値目標		目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	達成 状況	所管課	測定方法
1-1 確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査正答率	小学校国語	全国平均を 上回る	68.0% 全国平均(64.7%)を 上回る	65.0% 全国平均(65.6%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		小学校算数		71.0% 全国平均(70.2%)を 上回る	62.0% 全国平均(63.2%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校国語		61.0% 全国平均(64.6%)を 下回る	64.0% 全国平均(69.0%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校数学		51.0% 全国平均(57.2%)を 下回る	40.0% 全国平均(51.4%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」と思う児童生徒の割合	小学校	全国平均を 上回る	80.7% 全国平均(78.2%)を 上回る	74.2% 全国平均(72.2%)を 上回る	達成	学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校		77.6% 全国平均(81.0%)を 下回る	73.2% 全国平均(79.2%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
	生徒が英語力を身に付けた割合	英検3級相当 取得率 (中学3年生)	40.0%	30.2%	23.7%		学校教育課	英語教育実施 状況調査
1-2 未来を拓く力の育成	「将来の夢や目標」を持っている児童生徒の割合		全国平均を 上回る	69.3% 全国平均(74.5%)を 下回る	71.2% 全国平均(73.5%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
	「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と思う児童生徒の割合			69.6% 全国平均(68.4%)を 上回る	70.1% 全国平均(69.8%)を 上回る	達成	学校教育課	全国学力・学習 状況調査
	学校情報化優良校の認定取得割合		80.0%	7.7%	92.3%	達成	学校教育課	日本教育工学協会「学校情報化 認定制度」

基本的施策	数値目標		目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)		所管課	測定方法
1-3 豊かな心・健やかな体の育成	自分にはよいところがある」と思う児童生徒の割合	小学校	全国平均を上回る	70.2% 全国平均(76.9%)を下回る	77.8% 全国平均(79.3%)を下回る		学校教育課	全国学力・学習状況調査
		中学校	全国平均を上回る	75.3% 全国平均(76.2%)を下回る	72.4% 全国平均(78.5%)を下回る		学校教育課	全国学力・学習状況調査
	毎日、朝食を食べる児童生徒の割合	小学校	全国平均を上回る	93.9% 全国平均(94.9%)を下回る	94.8% 全国平均(94.4%)を上回る	達成	学校教育課	全国学力・学習状況調査
		中学校	全国平均を上回る	94.0% 全国平均(92.8%)を上回る	89.9% 全国平均(91.9%)を下回る		学校教育課	全国学力・学習状況調査
	全国体力・運動能力、運動習慣等調査で全国平均を上回る実技種目数の割合(全国平均を上回る種目数/対象種目数)	小学校	全ての实技種目で全国平均を上回る	男子:7/8 女子:7/8	男子:4/8 女子:5/8		学校教育課	全国体力・運動能力、運動習慣等調査
		中学校		男子:7/9 女子:6/9	男子:9/9 女子:9/9	達成	学校教育課	全国体力・運動能力、運動習慣等調査
1-4 人権を守る教育の充実	「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思う児童生徒の割合	小学校	100%	96.7%	97.1%		学校教育課	全国学力・学習状況調査
		中学校	100%	95.8%	95.1%		学校教育課	全国学力・学習状況調査
	「人が困っているときは、進んで助けている」と思う児童生徒の割合	小学校	100%	85.9%	89.3%		学校教育課	全国学力・学習状況調査
		中学校	100%	88.5%	85.5%		学校教育課	全国学力・学習状況調査
1-5 幼児教育・義務教育から高校教育までを見据えた教育環境の魅力向上	荒尾市で子育てをしたいと思わない理由として「子供の教育環境が充分でないから」を挙げる人の割合		36.5%	46.5%	33.3%	達成	教育振興課	まちづくりアンケート

【基本方針2 学びを支えるためのセーフティネットを構築する】

基本的施策	数値目標	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	達成 状況	所管課	測定方法	
2-1 多様なニーズに対応した教育の 推進	「特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った」と評価する学校の割合	小学校	100%	90.0%	100%	達成	学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校	100%	100%	100%	達成	学校教育課	全国学力・学習 状況調査
2-2 教育相談及び教育支援体制の 充実	適応指導教室(教育支援センター) の整備数	4拠点	2拠点	4拠点	達成	学校教育課	整備事業取組 状況	
	不登校の児童生徒が、教職員だけではなく専門家からの支援を受けている割合	100%	89.1%	92.6%		学校教育課	定例報告(専門 家の活用状況)	
2-3 学びと育ちの支援	就学援助制度の認知度	100%	—	—		教育振興課	保護者アン ケート等	

【基本方針3 生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する】

基本的施策	数値目標	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度 ※1)	実績値 (令和4年度)	達成 状況	所管課	測定方法
3-1 人生100年時代を見据えた生涯 学習社会の実現	市立図書館来館者数	150,000人	21,773人	284,244人	達成	生涯学習課	事業実施状況
	中央公民館来館者数	※2(令和7年度) 44,590人	20,404人	28,124人		生涯学習課	事業実施状況
3-2 生涯スポーツの振興及び生涯学 習活動施設の整備充実	スポーツに関する環境の満足度	41.8%	33.3%	33.8%		生涯学習課	まちづくりアン ケート
	運動習慣がある人の割合	※2(令和7年度) 男性:63.0% 女性:48.0%	男性:56.0% 女性:45.0%	男性:57.0% 女性:42.0%		生涯学習課	まちづくりアン ケート
3-3 ふるさとの自然、伝統、文化に関 する学習機会の充実	文化・教養に関する環境の満足度 ※1	45.0%	35.3%	38.6%		文化企画課	まちづくりアン ケート
	小中学生対象郷土学習の参加者数 ※1	700人	242人	524		文化企画課	事業実施状況

※1 計画策定時の現状値について、基本的施策「3-3 ふるさとの自然、伝統、文化に関する学習機会の充実」については令和2年度の実績値を記載。

※2 市総合計画(計画期間:令和2年度～令和7年度)の重要業績評価指標としても設定していることから、令和7年度時点の目標値を記載。
令和8年度については、実績値をもって評価検証。

【基本方針4 地域とともに、社会の変化に応じた教育環境をつくる】

基本的施策	数値目標		目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	達成 状況	所管課	測定方法
4-1 教育環境の整備・充実	コミュニティ・スクールにおける「学校の教育環境の整備・充実」についての評価点数		※2(令和7年度) 3点以上/4点	—	3.77	達成	学校教育課	コミュニティ・スクールにおけるアンケート
4-2 学校の指導、運営体制充実と働き方改革の推進	教職員の時間外在校等時間が年360時間以内となっている割合		100%	—	35.5%		教育振興課	タイムカードシステムから抽出
4-3 児童生徒の安全確保	各学校危機管理マニュアルの点検・見直しを実施した学校の割合		100%	—	100%	達成	学校教育課 教育振興課	学校アンケート等
4-4 家庭、地域、学校の連携・協働の推進	地域学校協働活動推進員の発掘による支援ボランティア活用延べ人数		6,500人	6,624人	6,525人	達成	生涯学習課	事業実施状況
	学校支援ボランティア延べ人数		※2(令和7年度) 28,240人	23,899人	23,114人		生涯学習課	事業実施状況
4-5 感染症や自然災害等のリスクを踏まえた持続的学びの確保	遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていると評価する学校の割合	小学校	100%	80.0%	80.0%		学校教育課 教育振興課	全国学力・学習状況調査
		中学校	100%	66.7%	66.7%		学校教育課 教育振興課	全国学力・学習状況調査

※2 市総合計画(計画期間:令和2年度～令和7年度)の重要業績評価指標としても設定していることから、令和7年度時点の目標値を記載。令和8年度については、実績値をもって評価検証。

第2期荒尾市教育振興基本計画 重点施策の取組状況

基本方針	重点施策	主な取り組み状況（令和4年度）	課題など	担当課
1 夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する	基礎学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●「進化型あらおベーシック」授業の定着と質の向上 新学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、子どもたちが自ら課題を発見し、解決していく学習「進化型あらおベーシック」授業の定着を目指し、平成30年度より展開している授業改善アドバイザー事業を中心に児童生徒を主体とした協働的な授業づくりを推進しました。 ●授業改善アドバイザー事業 授業改善アドバイザーを招聘し、4月に荒尾市に赴任した全ての教職員を対象に「進化型あらおベーシック」研修会を実施しました。また、同アドバイザーによる学校への直接訪問指導を年間計13回実施した他、学力向上対策部会、学力向上地域支援事業等で本事業への支援を行うことで、教職員の指導力向上を図り、誰一人取り残すことのない学力の育成に努めました。 	<p>「進化型あらおベーシック」授業の定着を目指した取組は5年目となりますが、基本施策「1-1確かな学力の育成」における数値目標の達成状況はまだまだ低い状況です。</p> <p>また、学力の未定着層の児童生徒も少なくなく、学力の二極化が課題となっています。誰一人取り残すことなく学力を保证するため、今後も「進化型あらおベーシック」授業による全員参加、一人一人が活躍する授業づくりを目指す必要があり、今後も授業改善アドバイザーによる派遣指導等を活用し、市内全小中学校で「進化型あらおベーシック」授業を定着・充実をさせていきたいと考えています。</p>	学校教育課
	英語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●英語教育充実事業 英語教育に関わる小中学校の教員を対象とした研修を年間3回実施し、授業研究会や小中学校での授業における成果、課題等を検討することで英語教育のスキルアップを図りました。 また、市内中学校の1年生から3年生までを対象とし、実用英語技能検定（英検）について、生徒の希望級の受験料を市が負担して実施（財源として荒尾子ども未来基金及び県補助金を活用）することで、生徒全員が英検に取り組む体制を構築し、英語への関心を引き出し、学習意欲の向上を図りました。 	<p>基本施策における数値目標「1-1確かな学力の育成」における「生徒が英語力を身に付けた割合」の達成状況につきましては、令和4年度実績で23.7%と目標の40%には届きませんでした。</p> <p>児童生徒の学力及び学びに対する意欲は、学年が上がるにつれて低下し、県平均と比較しても低い状況にあり、特に英語については、苦手意識を持つ生徒が多く、成績も低迷している点が課題となっています。今後、ますます社会のグローバル化が進展し、英語力の必要性が高まると考えられます。</p> <p>このため、英語教育を更に推進し、英語授業における教員の指導力向上とともに、学校教育活動を通じた英語の日常化を図り、本市の子供たちが、社会に出て通用する英語力を身に付けることができるよう、継続的に取り組んでいきます。</p>	学校教育課 教育振興課
	ICTを活用した教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●小中学校ICT環境整備事業 GIGAスクール構想により整備したタブレットの整備・運用に加え、ICT支援員を配備し機器の活用等に関する支援を行う等、学校における校務支援を含む、ICT環境整備の充実を図りました。 令和4年度は小中学校8校（10学級以上の学校）を対象にインターネットローカルブレイクアウト方式を整備し、帯域拡充を行ったことでクラウド型教材、WEB会議アプリケーション等を同時に使用しても遅延なく利用することができるようになり、より高度なICTツールを活用できる授業環境を構築しました。 ●1人1台端末を活用した学習の推進 これまでの教育実践の蓄積と合わせてGIGAスクール構想により整備したタブレット等のICT機器活用の充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、学習活動の一層の充実に繋げることができました。 	<p>基本施策「1-2未来を拓く力の育成」における「学校情報化優良校の認定取得割合」は92.8%と令和8年度までの目標値である80%を超えることができました。</p> <p>タブレットや電子黒板等のICT機器は、思考を可視化し表現することや他者と交流するなど、学習内容の理解を深めたりする際に効果的であり、これまでの教育実践の蓄積と合わせてICT活用の充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、学習活動の一層の充実に繋がっています。</p> <p>ICTの活用が授業の目的となってしまうことがないように教員一人一人の授業改善を進めていくことや、家庭学習等でのICT活用が今後の課題であると考えており、これまでの教育実践とICTのベストミックスを図ることができるよう、継続して活用を推進していきます。</p>	学校教育課 教育振興課

基本方針	重点施策	主な取り組み状況（令和4年度）	課題など	担当課
2 学びを支えるためのセーフティネットを構築する	不登校児童生徒に対する多様な教育機会の確保	<p>●中学校フリースクール事業 平成13年度に開設した校外教育支援センター（小袋教室）1か所に加え、令和2年度には荒尾第三中学校に校内教育支援センター（ハートフルルーム）を設置し、不登校児童生徒の居場所づくりに取り組んでいます。令和4年度においては、荒尾海陽中学校と荒尾第四中学校の2か所の校内教育支援センター（ハートフルルーム）を新たに開設し全ての公立中学校への設置を完了しました。 市内の不登校児童生徒が第三の居場所として活用し、社会的自立に向けた第一歩を踏み出すことができ、令和4年度の利用実績は、校外教育支援センター（小袋教室）延べ150人、校内教育支援センター（ハートフルルーム）延べ257人となっています。</p> <p>●心の教室相談及びスクールソーシャルワーカーの活用 様々な悩みを抱える生徒及びその保護者に対し、各中学校に配置した心の教室相談員が適切に教育相談を実施し、生徒等の心に寄り添った対応を行いました。また、教育委員会にスクールソーシャルワーカーを配置し、福祉等の関係機関との連携や情報共有を行いながら、様々な課題を抱える児童生徒等への早期支援や相談体制の充実に努めました。</p>	<p>基本施策「2-2 教育相談及び教育支援体制の充実」における「適応指導教室（教育支援センター）の整備数」は、令和4年度に4拠点となり、令和8年度までの数値目標を達成できました。 中学校の不登校生徒に対する支援が進んだことにより、中学校における不登校生徒数は減少傾向にある半面、小学校における不登校児童は増加傾向にあり、小学校の不登校児童に対する支援が今後の課題となっています。 中学校に開設している校内教育支援センター（ハートフルルーム）で培ったスキルを活かし、取り組みの幅を広げていくことにより、小学校の不登校児童減少に繋げていきたいと考えています。 また、不登校対策をはじめ、多様化する児童生徒等の問題に対する適切な相談対応等を継続的に進めていくための人員体制の確保・維持も課題となっています。</p>	学校教育課 教育振興課
3 生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する	生涯学習の学びの機会や場の充実	<p>●新図書館を活用した読書活動の推進 令和4年4月にオープンした新図書館では、多世代が参加しやすいイベント（児童文学・芥川賞作家のトークショー、子ども向けスタンプラリー等）を開催し、読書活動の推進を図りました。また市民団体や行政の取組に合わせた作品展示や特設本コーナーによる学びの場（干潟、文化遺産、炭鉱電車、海達公子等）の提供等にも努めました。</p> <p>●スポーツ環境の整備・充実 運動公園施設は、老朽化が目立つものの既存施設の長寿命化に取り組んでおり、令和4年度は多目的広場をはじめとした照明設備の改修を行う等、スポーツ環境の整備・充実に努めました。</p> <p>●文化交流の推進 宮崎兄弟の生家施設については、青少年国際交流事業として荒尾市とシンガポールの中学生によるICT交流を開催しました。また、前年度に引き続き、市内小中学校に「日中友好の朝顔」の種を配布し、子供たちに荒尾市が「日中友好の地」であることを知ってもらいました。</p> <p>●文化財の継承・保存・活用 万田坑の価値や魅力を来場者にわかりやすく伝えていくため、ガイドの育成や、市内小中学校の学校教育における、郷土学習において、子供たちの郷土への誇りや愛着心を育む取組を推進しました。また、令和4年度においては、野原八幡宮風流がユネスコ無形文化遺産となったことを記念して、荒尾総合文化センターで野原八幡宮風流公演会を行いました。</p>	<p>令和4年4月の新図書館オープン後、基本施策「3-1 人生100年時代を見据えた生涯学習社会の実現」における「図書館来館者数」は令和8年度までの目標値を大きく上回り284,244人となりました。中高生の学習利用が増え、子どもたちが過ごしやすい場所となっていますが、貸出冊数については目標に達していないため、来館者が気軽に本を借りたくなるような取組をさらに強化していく必要があります。</p> <p>また、基本施策「3-2 生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実」における数値目標については、微増傾向が見られたものの、目標値には達しませんでした。今後、老朽化した市民体育館等の運動公園施設更新の検討を進め、スポーツ環境の充実を図る必要があります。また、中学校部活動の地域移行が進められる中で、指導者や地域の受け皿確保も課題となっています。</p> <p>文化交流の推進等については、基本施策「3-3 ふるさとの自然、伝統、文化に関する学習機会の充実」における「文化的な環境に関する満足度」は、計画策定時の現状値を上回ることができましたが、目標値には達しませんでした。</p> <p>昨年度までは新型コロナウイルス感染症の影響により、交流事業等にも色々と制限がありましたが、今後は、文化財の保存、活用、発信を推進するとともに、文化・芸術活動への参加機会の提供を促進する必要があります。</p> <p>宮崎兄弟の生家施設関連交流件数について、新型コロナウイルス感染症の影響により今回はICT交流となりましたが、来年度は直接交流を行う予定です。また、シンガポール孫中山南洋記念館・晩晴園とは、これまでの学術交流から、学生間の国際交流など多様な交流へ発展させていくことが必要です。</p>	生涯学習課 文化企画課

基本方針	重点施策	主な取り組み状況（令和4年度）	課題など	担当課
4 地域とともに、社会の変化に応じた教育環境をつくる	学校施設等の整備	<p>●荒尾市学校施設等長寿命化計画の更新 平成30年度に策定した「荒尾市学校施設等長寿命化計画」について、国のバリアフリー化推進指針を踏まえ、本市における学校施設のバリアフリー化推進計画を盛り込んだ内容に更新しました。令和5年度以降、更新した計画に基づき、市内の小中学校の計画的な整備に努めます。</p> <p>●学校施設長寿命化改良事業 「荒尾市学校施設等長寿命化計画」に基づき、老朽化した学校施設の改修に努めました。令和4年度は、清里小学校と荒尾海陽中学校の北棟について、外壁改修屋上防水工事を実施し、避難所にも指定されている学校施設の防災機能強化を図りました。</p>	<p>国のバリアフリー化推進指針においては、令和7年度末までに避難所に指定されている全ての学校施設（校舎・体育館）にバリアフリートイレを設置する目標を掲げており、本市においても令和7年度末までの整備完了を目指して令和5年度から取り組む予定ですが、バリアフリートイレが未設置の学校の割合が多く、必要な設置個所数が数多く見込まれることから、設計・工事には多額の費用が見込まれます。</p> <p>また、「荒尾市学校施設等長寿命化計画」に基づく学校施設の長寿命化改良工事等の大規模改修については、費用面に加え、工事の実施が学校教育へ与える影響を最小限に押さえ、教育活動が円滑に継続できる環境を確保する等の課題もあります。</p> <p>今後、予算の確保に努めながら、新しい学びに対応した学校施設の整備に継続的に努めます。</p>	教育振興課
	教職員の働き方改革の推進	<p>●ICTの活用等 校務支援システムやグループウェア等のICT活用を推進し、教職員の在校時間の適切な把握に努めた他、学校業務時間外の自動音声応答メッセージシステムの導入や夏期休業中の学校閉庁日設定を行う等、教職員の長時間労働の改善に努めました。</p> <p>●教職員以外の人材活用 スクールソーシャルワーカーの配置や特別支援教育支援員の増員を行い、教職員が質の高い教育活動に専念できる環境整備に努めました。</p>	<p>基本的施策「4-2学校の指導、運営体制充実と働き方改革の推進」における「教職員の時間外在校等時間が年360時間以内となっている割合」は35.5%と令和8年度までの達成目標である100%までにはまだまだ大きな開きがあるのが現状です。</p> <p>ICTを活用し、出勤簿や出張命令書等のサービスに関する文書のデジタル化する等、教育のDXを推進していくことで、教職員の働き方改革を更に推進していく必要があります。</p> <p>また、多様化する児童生徒や保護者の困りごと等に適切に対応していくための教職員以外の人員確保にも継続的に取り組み、教職員の負担軽減が図られるよう、引き続き人材の確保及び活用に努めます。</p>	学校教育課 教育振興課

第2期荒尾市教育振興計画の取組状況に関する概評（令和4年度事業）

事務点検評価委員：宮辺 博幸

	基本方針	概 評
1	夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する	<p>全国学力学習状況調査正答率、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」という児童生徒の割合のうち、中学校において目標値を下回っていることから、「進化型荒尾ベーシック」授業の定着により、生徒を主体にした協働的な授業の推進に努められ、目標値の達成を目指していただきたい。また、生徒が英語力を身に付けた割合は、目標値よりまだかなり低い。現在取り組まれている事業をさらに充実させ目標達成に繋げていただきたい。未来を拓く力の育成においては、それぞれの項目で目標値に達成またはほぼ達成しており、子どもたちの未来へ向かう意欲を感じる。「早寝早起き朝ごはん」運動などの取り組みの成果により、毎朝、朝食を食べる児童生徒の割合は目標値にほぼ達成しているが、引き続き数値が上回っていくことを期待する。全国体力等調査では、小学校が下回っていることから、子どもたちの体力向上を目指していくためにも、全国平均を上回る実技種目数が増えていくよう努められたい。人権を守る教育の充実の項目では、さらに人権教育の推進に努められ、目標達成に繋げていただきたい。また、荒尾市で子育てをしたいと思わない理由の項目は、目標値を達成しているが、今後も教育環境には十分配慮しながら、魅力ある教育環境作りに努めていただきたい。</p>
2	学びを支えるためのセーフティネットを構築する	<p>「特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った」の項目は達成されている。特別な支援が必要な児童生徒の対応についての研修会の実施などにより、障がいへの理解が深まっていることから、支援員との連携を強化しながら、今後も、特別な支援の必要な児童生徒への取組を続けられたい。また、今年度からは各中学校にフリースクールが設置されたことで、小袋教室を含めて適応指導教室の整備数は目標に達している。活動内容を検証しながら不登校児童の解消に努められたい。「不登校の児童生徒が、教職員だけでなく専門家からの支援を受けている割合」も、90%を超え目標に近づいていることから、適応教室指導員の活用により、目標値の達成を目指していただきたい。</p>
3	生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する	<p>市立図書館来館者数は、大幅に増え、目標に達している。新図書館は、教育環境に優れ、利便性もあることから、生涯教育の中心の場になっていくことを期待する。中央公民館来館者数は目標値とはかなりかけ離れているが、老朽化も著しいことから、安心安全に配慮しながら、指定管理者による来館者増への取り組みに期待したい。スポーツに関する環境の満足度については、昨年から微増したものの、まだ目標値と差があり、今後も生涯スポーツの推進のためにも、拠点施設の老朽化に適切に対応しながら、市民の満足度アップに繋げていただきたい。運動習慣のある者の割合は男女ともに目標値に近づいてきている。今後も、地域スポーツ、生涯スポーツの推進により運動の機会の創出、提供に努められたい。文化教養に関する環境の満足度は、昨年を上回り徐々に目標値に近づいている。さらに文化交流の推進を図っていくことで、目標達成を目指していただきたい。小中学生対象郷土学習の参加者数は昨年から大幅に増えている。本市の誇る文化遺産等を保存、継承していくためにも、さらに児童生徒への郷土学習に力を入れていただきたい。</p>
4	地域とともに、社会の変化に応じた教育環境をつくる	<p>コミュニティ・スクールの項目は目標値に達しており、地域との連携による教育環境の整備、充実に努められている。教職員の時間外在校等時間年360時間以内となっている割合については、かなり低いことから、教職員の働き方改革への取り組みを十分検討され、目標達成に近づけていただきたい。各学校の危機管理マニュアルの点検・見直しは目標値に達しているので、マニュアルに沿った管理の徹底に努められたい。学校支援ボランティアの発掘、確保にはさらに努力されたい。また、更なるICTの整備充実に努められ、遠隔・オンライン授業の項目での目標値の達成を目指していただきたい。</p>

第2期荒尾市教育振興計画の取組状況に関する概評（令和4年度事業）

事務点検評価委員：日比 眞一

	基本方針	概 評
1	夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する	<p>「学校情報化優良校の認定取得割合」が目標値を超えるなど、地道な努力の成果が見られる。タブレットや電子黒板等のICT機器の活用により、主体的で対話的な授業の拡充につながっている。今後は、ソサエティ5.0等も念頭に置きながら、情報リテラシーの生み出す価値について感得できる、学びの環境整備にも期待する。</p> <p>授業改善アドバイザー派遣の取り組みにより、進化型あらおベーシックが進展している。アンケートでは「学校が楽しい」「授業が分かる」の割合が90%前後と高い。今後は、学力の二極化が見られることについて、その分析を進めることに期待する。</p>
2	学びを支えるためのセーフティネットを構築する	<p>適応指導教室の整備数は目標を達成できている。不登校生徒に対する支援が進んだことにより、中学校における不登校生徒数は減少傾向にある。不登校に限らず、様々な悩みを抱える生徒及びその保護者に対し、心の教室相談員が適切に教育相談を実施した。今後は、これらの支援につながらない、インボランタリー化している児童生徒やその家族への支援にも期待する。地域社会においても、学校神話は根強く作用して、不登校の児童生徒やその家族は弱い立場になることもある。社会的孤立を生まないように、スクールソーシャルワーカーへの理解や活用がさらに進むことも期待する。</p>
3	生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する	<p>新図書館オープン後、来館者数は目標値を大きく上回った。学習スペースの充実により、中高生の来館は急増している。子どもたちが過ごしやすい場所にもなっている。若年層の利用増加にもつながった。今後は、図書館を活用した、地域の知の拠点づくりも視野に入れた運営の検討にも期待する。スポーツ環境の整備や拡充が進んでいる。施設の長寿命化に取り組んでいる。安全・安心な健康の増進・推進の場として、地域の生涯スポーツの推進に寄与している。今後は、超高齢社会が継続する中で、スポーツを通じての健康寿命の延伸や、スポーツを通じての、地域創生やまちづくりも視野に入れた事業の検討にも期待する。</p>
4	地域とともに、社会の変化に応じた教育環境をつくる	<p>荒尾市学校施設等長寿命化計画は、国のバリアフリー化推進指針を踏まえて、学校施設のバリアフリー化推進計画を盛り込んだ内容に更新された。今後は、学校のバリアフリー化により示される、バリエラビリティへの合理的な配慮について、教職員や児童生徒が感得できる施設づくりも期待する。教職員の働き方改革も進めている。教職員の長時間労働の改善に努めた。今後は、職務の無限定性も指摘される、教員の専門性を明確にするためにも、スクールソーシャルワーカーへのさらなる理解や活用が進むことも期待する。</p>